

家屋におけるナガヒラタムシ科 Cupetidae の被害事例

○佐々木健 (アペックス産業株式会社)

A Case Report of Damage by Cupetidae (Coleoptera) in a Residential Structure

○Takeshi Sasaki (Apex Pest Control Co., Ltd)

ナガヒラタムシ科は日本では 6 種が知られており (2024 yoshitomi), コウチュウ目で最も古い原始的なグループとして知られ、幼虫は朽木に見られる。通常枯れ木や朽木の樹皮下から採集され時として屋内でも採集される (2017 野村)。灯火にも飛来し (2023 古宮), 屋内発生の事例はあるものの、とくに多数の発生報告は少ない (2017 野村)。

2023 年 6 月東京都品川区の住宅から都市有害生物管理学会宛てに相談のメールが届いた。相談者は既にインターネット等でよく調べており、「ナガヒラタムシという木に生息する虫が家の中に多く出て困っている」というものであった。演者の所属する会社が近隣であり、現地調査を取り急ぎ行った。目視による調査を行ったところ、室内とベランダ木製デッキ下にナガヒラタムシ科の成虫が見られた。

また、ベランダ木製デッキの一部が腐朽しておりその中にも成虫が見られたため、ここが最も有力な発生源と考えられたが、幼虫や虫卵を発見することはできず、明らかにナガヒラタムシが腐朽部分を加害しているような様子は見られなかった。

室内は生息の見られたベランダが隣接するリビングにのみ、成虫の出没が見られた。被害としては成虫が毎日窓際に数個体が出没するという不快被害であり、その他木部を食害するような箇所、明らかな腐朽部分は発見できなかった。さらに室内に粘着トラップを配置し、捕獲調査を試みたがトラップへの捕獲は見られなかった。

防除としてはベランダデッキにプロペタンホス水性乳剤の散布、天井裏及び床下に同薬剤の霧状噴霧を行った。ベランダデッキは相談者によって完全に除去工事が行われ、室内においても引き続きトラップへの捕獲はなく、9 月以降室内への出没も見られなくなったため、防除完了とした。